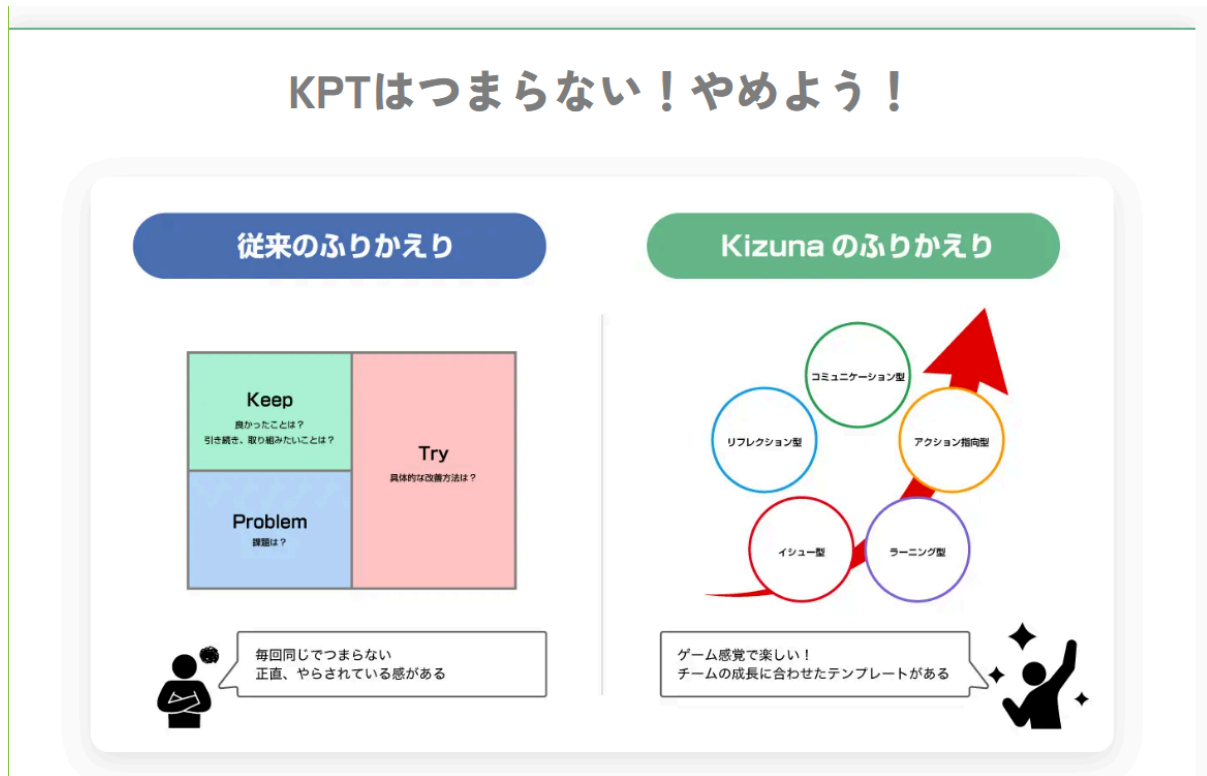


チームの絆を深める

ふりかえりの時間

レトロスペクティブを通じて、チームの成長を加速させましょう

KPTはつまらない！やめよう！



ふりかえりに、すべてのチームに通用する万能な型はありません。チームの状態と合わない型を使い続けることで、ふりかえりは形骸化し、「やらされるもの」になっていきます。

KPTでは、以下の問題がありがちになっています。

- ✖ 発言が固定メンバーだけ
- ✖ 毎回同じ結論
- ✖ 何も変わらない

kizunaでは様々な目的で作られた、ふりかえり(テンプレート)が用意されており、それぞれ目的に沿ってカテゴリ化されています。まずは「お互いを知る段階」から、チームの成長に合わせて「よりよいチームを作る段階」や「能動的に活動するチーム」など、どんなチームにするか育成することができます。

チームの状態に合わせた5つの型

- ・イシュー発見型・課題やリスクを明らかにし、解決策を検討する
- ・アクション指向型・具体的な行動を生み出し、継続的に改善する
- ・コミュニケーション型・心理的安全性を高め、関係性を強化する
- ・リフレクション型・事実を振り返り、認識を揃える
- ・ラーニング型・知識を共有し、成長を促進する

チームの状態に合わせた5つの型



イシュー発見型

課題やリスクを明らかにし、解決策を検討する



アクション指向型

具体的な行動を生み出し、継続的に改善する



コミュニケーション型

心理的安全性を高め、関係性を強化する



リフレクション型

事実を振り返り、認識を揃える



ラーニング型

知識を共有し、成長を促進する

初めてでも安心して継続できる多数の仕組みを実装

初めてでも安心して継続できる 多数の仕組みを実装

誰でも安心して、質の高い
ふりかえりを進行できる

ファシリテーターを支援する仕組み

続けたいくなる仕掛けで、
ふりかえりを文化に

習慣化を支援する仕組み

振り返った結果が、
確かな成長として残る

達成感を高める仕組み

- ・誰でも安心して、質の高い・ふりかえりを
進行できるファシリテーター（進行役）を支援する仕組み
- ・続けたい仕掛けで、ふりかえりを文化に習慣化を支援する仕組み
- ・振り返った結果が、確かな成長として残る達成感を高める仕組み

- 進行ボードがいつでも確認でき、経験が浅くても迷わず進行可能
- ミニゲーム・タイマー・付箋など、ふりかえりに欠かせないツールを標準搭載
- 多数のふりかえりテンプレートと、目的別の検索機能で迷わずに最適なテンプレートを選択可能
- 多角的なレポート機能で、チームの変化・成長を一目で把握
- バッジコレクションにより、継続状況を可視化しモチベーションを向上

業界を越えて、チームに変化を生み出す

ふりかえりがもたらす変化は、業界や職種を問いません。
それぞれの現場で、どのような変化が生まれているのかをご紹介します。

IT・システム開発

「誰がやるか」ではなく、「チームとしてどう進めるか」へ

WEB・システム開発の現場では、フロントエンド・バックエンドのどちらでも対応可能な領域が存在します。その一方で、責任範囲が曖昧な作業については、無意識のうちに押し付け合いが起こることも少なくありません。

また、プロジェクトマネージャーは工数管理や納期調整に追われ、エンジニアに「お願いする立場」になりがちです。日頃のコミュニケーションが不足していると、依頼そのものが心理的な負担となり、結果として課題が表面化しにくくなります。

ふりかえりを行うことで、役割や判断の背景が共有され、「誰がやるか」ではなく「チームとしてどう進めるか」という視点が生まれます。その結果、助け合いが自然に起こり、マネージャーとエンジニアの関係性も対等なパートナーへと変化していきます。

教育

「センスに頼る教育」ではなく、「再現できる教育」へ

教育現場では、どうしても生徒から人気のある先生と、そうでない先生が生まれがちです。優れた指導技術や生徒との関わり方が、個人の経験やセンスに留まり、十分に共有されないケースも見受けられます。ふりかえりの場があることで、人気の先生が無意識に行っている工夫や視点を言語化し、組織全体で学ぶことができます。また、「真面目だが生徒との距離感に悩んでいる」といった先生自身も、他者の視点を通じて新たな強みやキャラクターに気づききっかけとなります。

結果として、教育の質が個人依存から脱却し、多様な教師像が活かされる環境が育っていきます。

製造業

「個人の勘と経験」ではなく、「現場全体の知恵」へ

製造業の現場では、作業が高度にルーチン化されている分、業務に直接関係しない対話が少なくなりがちです。その結果、作業のコツや判断基準が特定の人に属人化し、暗黙知のまま継承されにくい状況が生まれます。

ふりかえりを設けることで、「なぜそのやり方をしているのか」「どこに注意しているのか」といった知見を共有しやすくなります。個人の経験がチームの資産へと変わり、作業品質の安定や生産スピードの向上につながっていきます。

医療

「立場の違い」ではなく、「命を守る一つのチーム」へ

医療現場では、医師・看護師・看護助手といった明確なヒエラルキー構造が存在します。この構造自体が、率直な意見交換や疑問の共有を難しくし、良好な関係性を築きにくくしている側面があります。

ふりかえりを行うことで、立場や職種を超えて「現場で何が起きていたのか」を振り返る機会が生まれます。日常業務では見えにくい意外な工夫や視点が共有され、知識の横断的な伝達が進みます。

結果として、チーム全体の理解が深まり、医療事故の予防やリスクヘッジにもつながる土台が形成されていきます。

小売

「現場任せ」ではなく、「現場が主役の運営」へ

小売の現場では、売上や来店数といった数値は細かく管理されている一方で、その結果に至った「判断」や「工夫」は十分に言語化されていません。

地域特性や客層の違いにより、すべてをそのまま再現することは難しくても、取り組みの背景や考え方を抽象化すれば、似た特徴を持つ店舗やエリアで活かすことは可能です。また、アルバイトやパートを含む小さなチームでふりかえりを行うことで、現場の意識は「指示されて働く場」から「自分たちで店を良くする場」へと変わっていきます。日々の気づきや工夫が尊重されることで、当事者意識と活気が生まれ、接客品質の向上だけでなく、人材の定着にもつながります。

介護・福祉

「一人で抱える介護」から、「支え合える介護」へ

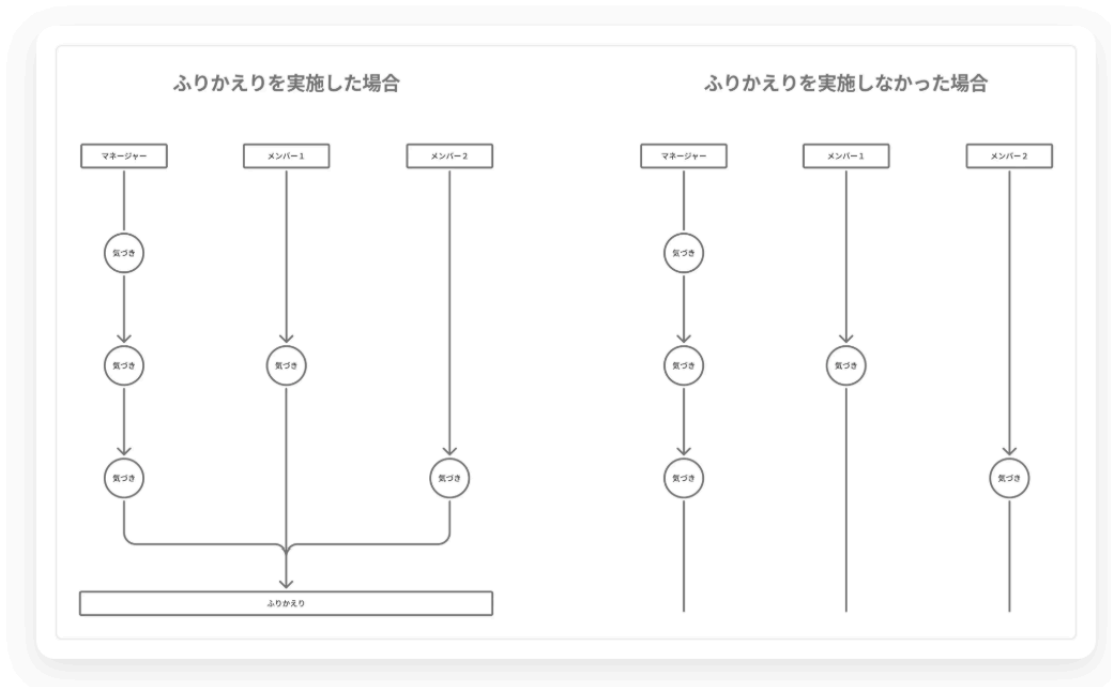
介護・福祉の現場では、「きつい・汚い・危険」といった身体的負荷に加え、正解のない判断を日常的に求められます。しかし、その判断の背景や迷いを共有する機会は少なく、対応を一人で抱え込んでしまいがちです。

また、新人や中途職員は、暗黙のルールや人間関係に入りづらく、「ここでやっていけるのか」という不安を抱えたまま業務を続けることになります。こうした判断の孤立や精神的負荷が、離職につながっていきます。

ふりかえりを行うことで、「なぜその対応を選んだのか」が共有され、判断が個人に閉じなくなります。迷いや不安を言葉にできる場が生まれ、経験の差を越えて知恵が循環することで、人が辞めにくい状態が、制度ではなく現場の文化として根づいていきます。

気づきが共有されるチームと、埋もれてしまうチーム

気づきが共有されるチームと、 埋もれてしまうチーム



日々の業務の中で、メンバーはさまざまな気づきや改善のヒントを得ています。しかし、それらが共有されなければ、個人の経験として埋もれてしまい、チーム全体の成長にはつながりません。

ふりかえりは、そうした「見えない気づき」を可視化し、チームの知恵として蓄積していく場です。定期的なふりかえりがあることで、それぞれの気づきが共有され、チーム全体の学びとして積み重なっていきます。

深刻なのは、メンバーが退職した際の影響です。ふりかえりがないチームでは、その人が持っていた知見やノウハウが失われ、チームの資産が喪失します。一方、ふりかえりを通じて知識が共有されているチームでは、個人の退職による影響を最小限に抑えることができます。

この小さな違いが、数ヶ月、数年と積み重なることで、チームの成熟度に大きな差を生み出します。

これは、感覚的な話ではありません
ふりかえりの効果は、研究でも示されています。

これは、感覚的な話ではありません

ふりかえりの効果は、研究でも示されています。



これらは実際の研究で観測された数値です

これらは実際の研究で観測された数値です

チームパフォーマンスの改善

定期的なふりかえりを実施したチームでは、作業効率が約11.8%上昇、不具合発生率の低減が約25%、サイクルタイム(タスク完了までの時間)が約9.8%短縮、チーム満足度が約11.1%向上しました。

出典: International Journal of Research and Analytical Reviews (IJRAR), 2025年1月

チーム成熟度との関係

成熟したチームほどふりかえりを効果的に活用しており、ふりかえりをよく実施するチームは協働性・自律性が高いという傾向が観察されています。

出典: Lucas Gren, Alfredo Goldman, Christian Jacobsson "Agile Ways of Working: A Team Maturity Perspective" (2019)

その他の効果

心理的安全性の向上、分散チームにおける協働性向上、コミュニケーション改善、メンバーのモチベーション向上などの効果も報告されています。

だからkizunaは、ふりかえりを続けやすくする設計になっています。

型を選べること、進行をサポートすること、記録が残ること。
すべてはチームが無理なく続けられるためです。